

## 中学校 技術・家庭科（技術分野）

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目指します。

### 重点1 資質・能力を目指した指導計画と授業構成 目標1 目標2

- 技術分野の目標は単に「何かをつくること」ではなく、技術の見方・考え方を働かせ、実際の社会や生活における問題を解決する「資質・能力」を育むことであると理解している。
- 「技術による問題の解決」を通して、理解の深化や技能の習熟を図るとともに、技術によって課題を解決する力や、自分なりの新しい視点で解決策を構想しようとする態度を育むことを目指している。
- 1年生で内容A・B、2年生で内容C・D(1)(2)、3年生で内容D(3)(4)を扱う基本計画に加え、設計の過程を十分に確保し、小・中・高の連続性を配慮（特に小学校プログラミング教育との接続）した指導計画を立てている。
- 各指導計画は「生活や社会を支える技術」「技術による問題の解決」「社会の発展と技術」の3要素で構成し、3年間を通じてこれらが系統的に繋がるよう意識し、特に、「社会の発展と技術」を確実に実施している。
- 生徒が取り組む問題解決のレベルは、学年の進行に合わせて「既存技術の評価・選択・運用」から「改良・応用」へと高度化させ、第3学年では内容D(3)と他内容を組み合わせた「統合的な問題」を設定している。

#### 【ポイント】

技術分野の授業は「何かを楽しく作ること」が目的ではありません。これからの時代を生き抜いていく生徒に付けるべき力を学習指導要領をもとに正しく理解し、指導計画を見直しましょう。

### 重点2 技術分野の特質に応じた学習環境の整備とICT利活用 目標3 目標4

- 1人1台端末やクラウド環境を活用し、共同編集や相互参照などの学習形態を取り入れることで、自らの授業改善に取り組むと共に、生徒の情報活用能力を育成している。
- 3Dプリンタ、3D CAD、生成AIなど、現代の技術分野の特質に応じた新しい機器やコンテンツの整備・活用について検討し、実践に取り入れている。
- 作業環境を整備し、服装や衛生管理について指導するとともに、作業時の不慮の事故やけがに備え、緊急対応について確認し、生徒にも徹底して指導している。

#### 【ポイント】

“情報活用能力”は、“言語能力”、“問題発見・解決能力”等と並んで、学習の基盤となる資質・能力として学習指導要領に示されています。これらの力を教科等横断的に育成し、さらに授業で活用することで、生徒の力を伸ばしていきましょう。また、“社会の急速なデジタル化”への対応が技術分野に期待されています。内容D(3)に限らず、内容A～Cの中でも情報と関連させた学習を展開していくことが求められています。

### 重点3 指導と評価の一体化および指導力の向上 目標1

- 評価は、生徒の「自己実現」、教師の「指導改善」、そして社会へ「教育成果を示す」ためのものであると理解し、自校の3カ年計画に沿った「学習活動に即した評価規準」の作成手順を熟知している。
- 作成した評価規準を用いて実際に評価を行ったうえで、改めて指導計画を見直すサイクルを回し、指導と評価の一体化をさらに進めている。
- 県や市町村の技術・家庭科研究会など、様々な評価に関する研修の場に参加し、意見交換を行うことで指導力の向上に努めている。

#### 【ポイント】

国立教育政策研究所発行の『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』や島根県教育委員会発行の「学習評価について【技術・家庭科（技術分野）】」等を読んで理解を深めましょう。

#### 資料【リンク】

- [指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料](#) [中学校](#) [技術・家庭編](#)（国立教育政策研究所）
- [中学校学習指導要領解説 技術・家庭編](#)（文部科学省）
- [中学校技術・家庭科（技術分野）事例集](#)（文部科学省）

## 高等学校 共通教科 情報

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを目指します。

### 重点1 体系的な情報教育を推進する 目標1 目標2

- 情報教育を、共通教科情報科だけが担うことなく、教科等横断的に情報活用能力を身に付けさせるように指導計画が立てられている。特に公民科及び数学科との連携については、学習指導要領に留意事項として記載されていることを理解している。
- 生徒がICT機器や情報通信ネットワークを適切に活用しながら表現をする活動を取り入れている。
- 情報活用能力をバランスよく身に付けさせるため、学んだ知識及び技術を活用し、情報に関する科学的な見方や考え方を養っている。
- 学校や生徒の実態に応じて、適切なソフトウェア、開発環境、プログラミング言語などを選択している。
- 社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響について指導している。

#### 【ポイント】

情報教育を考えるときには、共通教科情報科と他教科等の学習内容や学習活動との連携をよく検討してカリキュラム・マネジメントを行い、指導計画を立てることが大切です。他教科の学習指導要領との関連を正しく理解して指導計画を立てましょう。

### 重点2 発達の段階に応じた情報モラル教育の充実を図り、情報社会に主体的に参画する態度を育成する 目標3 目標4

- 日常的な出来事を取り上げ、個人情報の管理や情報モラルについて指導している。
- 情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用し、生徒に情報の収集や処理をさせている。
- 情報化の進展が社会に及ぼす影響や個人の責任などの面から情報社会の特性や在り方を考えさせている。
- 情報通信ネットワーク上のルールやマナー、情報の安全性などについて指導している。
- 情報モラルの向上のため、学校と家庭・地域が連携した取組を行っている。
- 著作権等の知的財産の保護等の情報及び情報技術を適切に扱うための知識と技能を習得させる指導を行っている。

#### 【ポイント】

学習指導要領には、小・中学校段階の基礎の上に、コンピュータや情報通信ネットワークなどを実践的に活用するとともに、情報モラル等についての指導の充実を図ることが明記されています。

目標5との関連は、URL または二次元コードからご確認ください。

URL <https://www.shimane-cc.pref.shimane.lg.jp/shien/tokubetsushien/-1218.html>



## 小・中・高を通じて身に付けさせたい 資質・能力（目指す子どもの姿）

プログラミング教育で育む知識及び技能

- （小）身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付く。
- （中）社会におけるコンピュータの役割や影響を理解するとともに、簡単なプログラムを作成できる。
- （高）コンピュータの働きを科学的に理解するとともに、実際の問題解決にコンピュータを活用できる。

文部科学省有識者会議「議論の取りまとめ」より抜粋

## 研修等について

○教育センター研修

\* 中学校技術教育講座

[第1回] 6月26日（金）浜田教育センター

[第2回] 12月4日（金）島根県教育センター

・[第1回]は向田識弘先生を招いて指導と評価の一体化をテーマとした講義と演習、[第2回]は統合的な問題解決の事例について演習を行う予定です。技術分野について学ぶことができる貴重な研修ですので、経験年数を問わず参加できるような研修にしています。

\* ゼロから学びたい先生のための教科教育研修

（中学校免許外教科：技術・家庭編 技術分野）

4月28日（火）島根県教育センター・

島根大学教育学部附属義務教育学校

・従来の免許外で技術分野を担当される方を対象とした研修と合わせて、“初めて”や“久しぶり”に技術分野を担当いただく方向けの研修内容にしています。

\* AI時代のプログラミング教育実践講座

10月8日（木）島根県教育センター

・小学校、中学校、高校の系統性を踏まえたプログラミング教育について、最新情報も含めて分かりやすく解説・演習していきます。

\* 共通教科情報「情報Ⅰ」・「情報Ⅱ」講座（2回）

[第1回] 6月11日（木）浜田教育センター

6月12日（金）島根県教育センター

[第2回] 9月10日（木）浜田教育センター

9月11日（金）島根県教育センター

・情報科教育推進担当者を対象に情報Ⅰ・情報Ⅱの各分野に関して最新情報を含め分かりやすく説明していきます。また、各校の情報共有も行います。

### 【参考】小学校プログラミング教育のねらい

- [小学校を中心としたプログラミング教育ポータル](#)
- [小学校プログラミング教育の手引（第三版）](#)